

嶺北森林管理署管内におけるニホンジカ生息調査及び 捕獲・駆除対策について

四国森林管理局 嶺北森林管理署 鶴内 和典
筒井 達朗

1 はじめに

近年、ニホンジカの生息頭数の増加に伴い、食害等による造林木等への被害は増加傾向にあり、特に農林産物への被害が深刻な状況となっており、地元市町村等からもニホンジカ被害対策の取組が求められています。

このような中、当署では囲いわな等を設置し、捕獲効率の向上、捕獲数の増大を目指していますので、その取り組みについて報告します。



写真1 人工林、天然林の被害状況

2 取組の経過

平成23年度から3年間は委託事業、平成26年度からは職員により有害鳥獣捕獲を実施しています。

職員による有害鳥獣捕獲の資格は、「国有林野における有害鳥獣捕獲要領」に基づく研修を実施しました。

わな等の設置については、箱わな、囲いわなを使用しています。

平成27年11月から長沢山国有林内に「トラロープ」及びセンサーカメラを設置し、ニホンジカの動態調査を実施するとともに、12月には、動態調査箇所において、高知県いの地区猟友会本川支部に協力依頼し、狩猟を実施しました。

平成28年1月には高知県吾川郡いの町桑瀬にある中江産業(株)土佐事業所の社有林と隣接する国有林とで「ニホンジカ食害防止対策に関する協定」を締結し、有害鳥獣(ニホンジカ)捕獲・駆除に取り組んでいます。

3 実行結果

(1)「わな」の種類について

①ユーチカ製の箱わなです。総重量は約140kgあり、8分割の組み立てとなっています(写真

2-1)。

②森林技術・支援センターが開発し、株式会社ヤマサが製造している鉄製の囲いわなです。

総重量が約 60 k g と軽量化され、二人で組み立て、軽トラックに積み込み移動することができます（写真 2-2）。

③ネットによる大型囲いわなです。周囲 60m～80mあります（写真 2-3）。

④最後に、この小型囲いわなは、大豊森林事務所の職員が、ニホンジカ防護ネットを使用し、独自に開発したわなです。ゲートが両開きとなっています（写真 2-4）。



写真 2-1



写真 2-2



写真 2-3



写真 2-4

(2) 箱わな、囲いわなの設置箇所について

本山町内と大豊町内、併せて 14 箇所設置（図 1-1）、大豊町内に 6 箇所、香美市香北町内に 5 箇所（図 1-2）、いの町内 6 箇所（図 1-3）、仁淀川町内に 3 箇所（図 1-4）設置しました。現在、当署管内のわな設置は、34 箇所となっています。

見回り等につきましては、各森林事務所の職員が実施しています。



図 1-1



図 1-2



(3) シカ捕獲の実績について

この表は6年間の捕獲実績を月別、性別、成獣・幼獣別に表したものです。成獣は20kg以上、幼獣は20kg未満としています。

市町ごとの 6 年間の実績 (図 2-1) は平成 28 年 10 月 31 日現在、香美市で 35 頭、大豊町で 60 頭、本山町で 33 頭となっています。合計 128 頭捕獲しています。

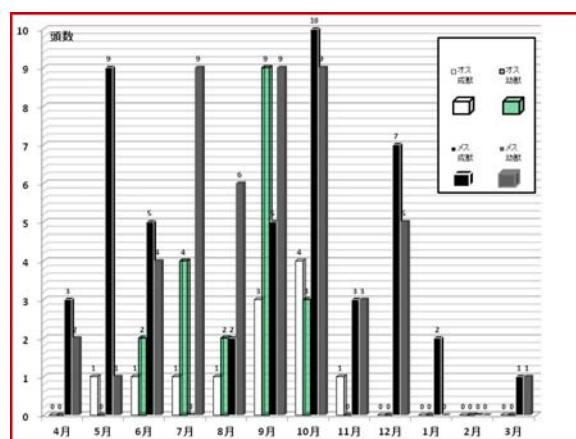
なお、高知県の町桑瀬地区にある民有林では、ここ、4年間で約400頭の捕獲実績があると聞いています。

この棒グラフ（図2-2）は、捕獲実績をグラフにしたものです。赤がオス成獣。緑がオス幼獣。黄色がメス成獣。紫色がメス幼獣です。

特徴としては、メスの捕獲が全体の75%と多く、オス成獣の捕獲が9%と極少数となっています。

このデータをみると、メスは通常、子育てをしており、活動範囲が狭いこと、オス成獣は警戒心が強いのか、わなに近寄る頻度が少ないためと推察されます。

メスは1歳から高齢まで妊娠率が高く、また、高位のオスジカの一夫多妻のため、メスの捕獲がシカの個体数減に直結すると考えられます。このため、今後は引き続き、警戒心の低い子ジカと行動を共にするメスジカの捕獲増に繋がる工夫に取り組みたいと考えています。

[illegible]

(4) センサーカメラによるニホンジカの動態調査について

今回、長沢山国有林内で、動態調査を実施するにあたり、一つの試みとして、稜線部に、上下2段のトラロープを約700m、張ることとしました。

この試みは、除伐箇所（写真3）にヒントを得て、

- ①除伐後、伐採木が堆積しているところは、ニホンジカも足場が悪く、通れない。
- ②作業用の歩道等を移動する習性が見受けられるなどの実態が考えられたからです。



写真3 (除伐箇所)

そこで、トラロープによって、ニホンジカの移動経路をかえられるのではないかと、移動経路をかえることによって、効果的な捕獲が可能になるのではないかと考え、試行してみました。

平成27年11月、職員3名により、稜線部に、上下2段のトラロープを張り、センサーカメラ9台を設置しました（図2-2）。

トラロープの上下2段の高さは、子ジカ、親ジカの目の高さを考え、上段が80cmから90cm、下段が約50～60cmとしました。

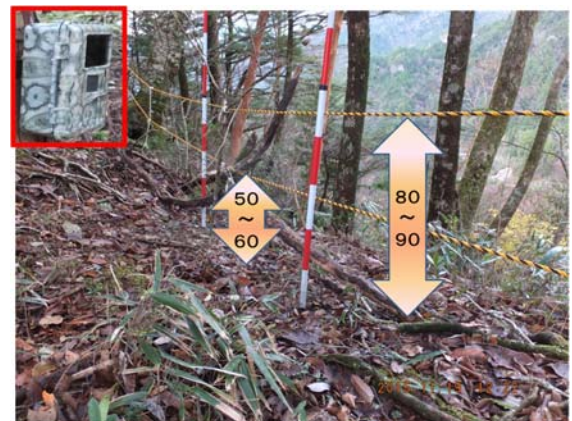


写真4

（写真4）林内は自然環境がきびしく、上下の高さを維持するのは、かなり、困難でした。



写真5



図2-2

苦勞の結果、トラロープ、センサーカメラを設置してから、3日目に、ニホンジカの撮影に成功しました（写真5）。

（5）高知県の地区猟友会本川支部とのニホンジカ駆除について

上記（4）の箇所において、平成27年12月6日、駆除を実施しました。

駆除を実施するにあたり、当日の朝、猟友会本川支部の皆さんに、図面（図3）により、トラロープ、センサーカメラの位置関係等の説明を行い、現地へ出発し、遠望できるところから猟場を確認（写真6）しました。

配置については林道上に3箇所にて待機し、3人で猟犬2匹をひきつけて歩道から上がり、獺を行いましたが、捕獲に至りませんでした。



写真6

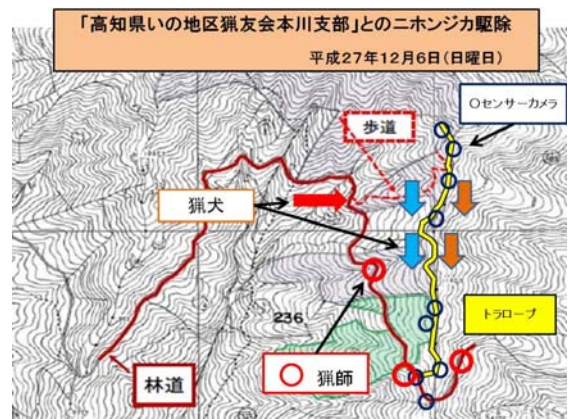


図3

今回の駆除についての、猟友会本川支部の意見は、

①ニホンジカは、エサ等を求めて、移動している。今回、このトラロープは、移動経路を遮断しているのではないかと。獺をする場合、この移動経路等をつきとめるのが大事である。

②ニホンジカは、猟犬等に追われた場合、このトラロープの高さであれば、間違いなく、飛び越えてしまう。などができました。

今後、トラロープを試行する場合は、猟友会本川支部の意見を参考にして、再度、工夫しながら、チャレンジしたいと考えています。

（6）ニホンジカによる森林被害の防止対策に関する協定について

平成28年1月8日に、中江産業株式会社土佐事業所と、ニホンジカによる森林被害の防止対策に関して、協定を締結しました（写真7）。

○場所：高知県吾川郡いの町桑瀬

○区域面積：国有林2,455ha、中江産業1,257ha、合計3,712ha（図4）

協定後は、区域内において、「わな、くくりわな」を設置し、ニホンジカの捕獲ができるようにしました。

なお、中江産業は、鳥獣被害対策として、くくりわなにより、この4年間で約400頭駆除実績があり、ニホンジカによる森林被害の低減に貢献している会社です。

今年度は10月末現在で102頭捕獲し、その内46頭（45%）国有林内で捕獲されています。

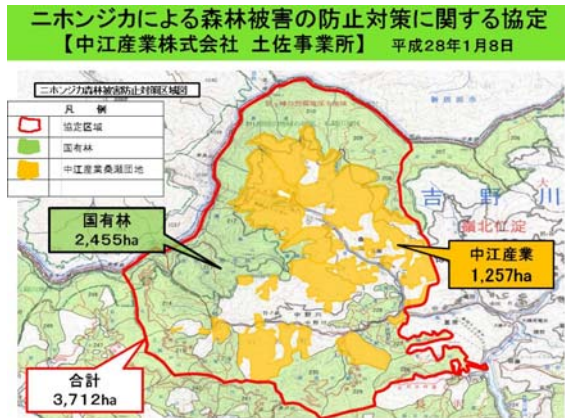


図 4

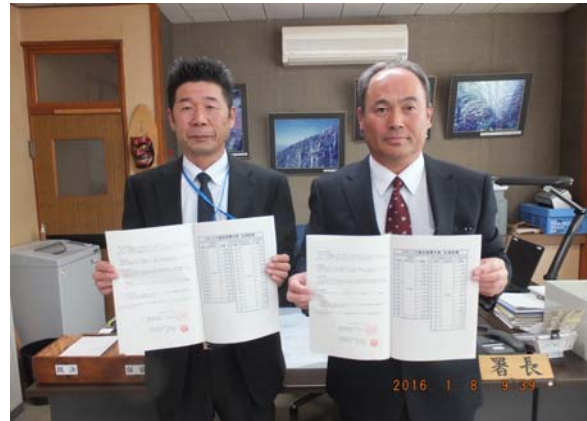


写真 7

4 考察（まとめ）

（１）ニホンジカ生息状況把握及び捕獲について

職員一丸となってニホンジカ捕獲に取り組むこととし、生息場所、移動経路等の情報につきましては猟友会からの意見を反映させていきたいと考えています。

（２）森林被害を低減させるための地域との連携について

地域との情報交換を密にして、隣接民有林との協働に努めたいと考えています。

（３）石鎚山系の森林被害に対する取り組みについて

近隣署間との情報交換を実施し、森林被害を低減させるため、効率的な捕獲方法については、研究機関等の意見も聞き、県市町村との協力体制を構築し、民有林・地元猟友会との連携を図りながら、少しでも多くの頭数調整に努め、石鎚山系への被害拡大をなんとか食い止めたいと考えています。